

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 リールズメイト茨木郡

公表日 : 2025年 3月 10日

利用児童数 : 36名

回収数 : 14名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8	3	0	3	退職や異動などがあるので、現在何人在籍されているのか把握出来ない	支援スタッフの顔ぶれ含め、日頃の様子を保護者専用ログを活用してお伝えしていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	2	0	3	身体や特性に応じて、活動日を変えてくれると良いと思う。大声や動きが怖いと感じているようです。	安全確保に努め、安心してご利用頂ける環境整備を推進する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	4	0	2	ロッカーとガラス張りの間に、物が沢山落ちている。	事業所美化に努める。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	2	0	2		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	2	0	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	0	0	2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	0	0	0	長期休暇や祝日に外出などのイベントもあり、子どもも楽しみにしているようです。	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	0	5	5	図書館などへ行った際、多少なり交流があると思う。（課外活動etc）	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	1	0	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1	6	5	必要なし	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	12	2	0	0	送迎の際に話を下さるので、とても良く分る。	引き続き、日頃の様子を保護者専用ログを活用してお伝えしていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	3	0	2	頻度増加希望。	引き続き、日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有に努めていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	2	0	1		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	1	8	5	必要なし	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	2	0	3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	2	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2	4	3	5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	2	1	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1	1	8		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1	1	7		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	2	1	5	以前、発生した際は速やかとは言えなかった。	日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	1	0	1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	0	0	1	喜んで通所しているので、何ひとつ心配な事はありません。	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	3	0	1	子どもの調子を見ながら無理なく取り組める課題等を準備してくださるのでありがたいです。	引き続き、通所を楽しみにできる支援の充実に努める。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	リールスメイト茨木郡		公表日 2025年 3月 10日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・限られたスペースを安全に広く使えるように、整理整頓・断捨離を行っています。	・マットを敷いていない部分での怪我が多いので、今ある状態からレイアウトを変え、安全に過ごせる環境に整えたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	4	・配置数は適切である。利用者人数を考慮しながら、非常勤スタッフへの出勤をお願いしている。	・近々、増員の予定はある。 ・余裕のある日が少ないため、早急に人員募集を図り、獲得に努めたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・整理整頓や断捨離を行い、個室を復活させた。	・クールダウンするにはまだ準備が整っていないため使用できていないが、整次第開放する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	3	・日々のミーティング等で目標や振り返りについて話す機会を設けている。	・日々の業務に精いっぱい目標を掲げられている人が少ない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・保護者向け評価表は利用のあった家庭にはすべて配布した。	・配布期間中休みであった利用者にも近くを通る時などで説明に伺い、より多くの意見を受けていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	・監査等に対応している。	・その場しのぎの対応が多かったと思われるため、今後は迅速に業務改善に繋げていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	・内部研修には必ず対象者全員が参加している。 ・当事業所で特別研修を行った。	・今後も必要に応じて当事業所に務める職員のための研修を行ってきたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	・更新の時期に合わせ、アセスメント表を作成している。	・更新時期にやらずれが生じているため、急速に正しい時期に戻していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	・児童発達支援管理責任者を中心に具体的な支援内容について日々考え、計画に反映させている。	・支援内容について理解の浅いスタッフがいると思われるため、ガイドラインのねらいを踏まえた説明をきちんと行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	3	・管理者も交え、毎月療育内容について会議を開催している。	・提案者が少ないため、日々の活動がどんな目的で行われているのかを伝え、考える糧にしてもらいたい。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	・翌日のミーティング時に振り返りを行っている。	・報連相の意識が低いため、全職員に意識づけていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8	0			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・問い合わせがあればモニタリング等、適宜対応を行っている。	・こちらから積極的にかかわることは少ないため、必要な時には率先して連絡を取り合っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	・学校お迎え時やすでに通っている他デイと情報を共有する機会を設けた。	・今後もより積極的に情報共有を促していきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	・情報提供を求められた際には、普段の様子等を伝えている。	・これまでは数が少なかったが、未就学児利用が増えているため、積極的に共有を図っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	3	・問い合わせがあった際には、適宜対応している。	こちらから積極的にかかわることは少ないため、必要な時には率先して連絡を取り、日々の支援に活かしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	・特になし	・現状のご利用児の特性上、デイ外での交流は難しい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	・特になし	・今後開かれることがあれば参加し、理解を深めたい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	・デイ内で取り組んだことについては自宅送迎等の際に詳細にお伝えしている。	・今まで行っていなかったため、家族参加型のプログラムは今後考えて実践してみたい。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0			
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	・モニタリング時には意思をしっかりと確認し、日々の支援に反映している。	・職員間で認識の違う人が見られるため、共通理解をもって支援に臨みたい。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	7	・特になし	・今まで行っていなかったため、保護者交流等の機会を考えてみたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	3	・ブログを行っている。	・更新頻度が少ないため、今後は職員でローテーションし、増やしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	・特になし	・現状のご利用児の特性上、デイ外での交流は難しい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	・マニュアルは完備し、年に2回の訓練も実施している。	・今後はより現実的な訓練を行い、保護者への報告も併せて行っていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	2	・BCPは策定している。	・不慣れなスタッフも多いため、決まった機関だけでなく定期的に訓練を取り入れていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	・ミーティングで議題となったものをヒヤリハットとして記録に残している。	・事故だけでなくヒヤリハットの再発防止についても考える機会を設ける。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0			

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメイト茨木郡		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援スペースが広く、運動や自由活動の幅を広げやすい。	整理整頓や断捨離に努め、より安全な環境づくりに努めている。	必要物品をそろえ、現在のご利用児に合わせたスペースづくりを心掛ける。
2	保護者との情報共有が盛んであり、意見や希望を受け入れている。	モニタリング時だけでなく、送迎時や連絡メモ等ツールを用いて、情報の共有や特性理解を深めている。	より保護者との関係性を深められるよう、可能な範囲での保護者参加型プログラムについて考えてみる。
3	グループ活動の充実さ	季節行事だけでなく、個々の運動能力を活かしたり、若い職員のアイディアを積極的に取り入れたりと、日々活動内容の幅を広げている。	デイ以外にも目を向け、新しい物事も積極的に取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置が不安定であり、経験の浅さが目立ってしまっている。	ご利用児の特性や業務内容への理解が低く、対応に困ってしまい、職員が離れていくケースが多い。	定期的な研修開催や日々のミーティング等を通じて、理解を深める機会を意識的に設け、職員間で差が開きすぎない程度にスキルを向上させていきたい。
2	災害時等の訓練が不十分である。	最低限の訓練は行っているが、なかなか現実的には計画できておらず、職員も把握できていない部分があると思われる。	今後の計画は役割や目的を明確にししながら、緻密に立案し、実際に行うことで改善や課題を見出ししていく。
3	就学前や卒業後に関する情報共有が狭い	常に受け手の姿勢であり、積極的に連絡を取ることが今まで少なかったため。	ご利用児の過ごしやすさを第一に考え、積極的な情報収集に努め利用前から対応について考える。また、卒業後の進路先にも必要事項やこれまで取り組んできた物事の共有を図り、活かしてもらえるよう働きかけていく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 リールスメイト茨木郡

公表日 : 2025年 3月 10日

利用児童数 : 2名

回収数 : 0名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	-	-	-	-	-	-
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	-	-	-	-	-	-
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	-	-	-	-	-	-
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	-	-	-	-	-	-
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	-	-	-	-	-	-	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	-	-	-	-	-	-
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	-	-	-	-	-	-
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	-	-	-	-	-	-
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	-	-	-	-	-	-
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	-	-	-	-	-	-
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	-	-	-	-	-	-
	29	事業所の支援に満足していますか。	-	-	-	-	-	-

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		リールズメイト茨木郡				公表日 2025年3月10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・限られたスペースを安全に広く使えるように、整理整頓・断捨離を行っています。	・マットを敷いていない部分での怪我が多いので、今ある状態からレイアウトを変え、安全に過ごせる環境に整えたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	・配置数は適切である。利用者数を考慮しながら、非常勤スタッフへの出勤をお願いしている。	・近々、増員の予定はある。 ・余裕のある日が少ないため、早急に人員募集を図り、獲得に努めたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・整理整頓や断捨離を行い、個室を復活させた。	・クールダウンするにはまだ準備が整っていないため使用できていないが、整次第開放する。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・日々のミーティング等で目標や振り返りについて話す機会を設けている。	・日々の業務に精いっぱい目標を掲げられている人が少ない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・保護者向け評価表は利用のあった家庭にはすべて配布した。	・配布期間中休みであった利用者にも近くを通る時などで説明に伺い、より多くの意見を受けていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	・監査等に対応している。	・その場しのぎの対応が多かったと思われるため、今後は迅速に業務改善に繋げていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	・内部研修には必ず対象者全員が参加している。 ・当事業所で特別研修を行った。	・今後も必要に応じて当事業所に務める職員のための研修を行ってきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	・更新の時期に合わせ、アセスメント表を作成している。	・更新時期にややズレが生じているため、急速に正しい時期に戻していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	・児童発達支援管理責任者を中心に具体的な支援内容について日々考え、計画に反映させている。	・支援内容について理解の浅いスタッフがいると思われるため、ガイドラインのねらいを踏まえた説明をきちんと行っていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	・管理者も交え、毎月療育内容について会議を開催している。	・提案者が少ないため、日々の活動がどんな目的で行われているのかを伝え、考える糧にしてもらいたい。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	・翌日のミーティング時に振り返りを行っている。	・報連相の意識が低いため、全職員に意識づけていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・問い合わせがあればモニタリング等、適宜対応を行っている。	・こちらから積極的にしかかわることは少ないため、必要な時には率先して連絡を取り合っていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2	・園のお迎え時やすでに通っている他デイと情報を共有する機会を設けた。	・保護者が送迎に来てくださる所は連絡が取りづらいことがあるため、積極的にしかかわりをもって支援に活かしていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2	・情報提供を求められた際には、普段の様子等を伝えている。	・これまでは数が少なかったが、未就学児利用が増えているため、積極的に共有を図っていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	2	・問い合わせがあった際には、適宜対応している。	こちらから積極的にしかかわることは少ないため、必要な時には率先して連絡を取り、日々の支援に活かしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	・特になし	・現状のご利用児の特性上、デイ外での交流は難しい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	・デイ内で取り組んだことについては自宅送迎の際に詳細にお伝えしている。	・今まで行っていなかったため、家族参加型のプログラムは今後考えて実践してみたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	・問い合わせがあった際には、電話や口頭で適宜対応している。	・面談はあまり行えていないため、モニタリングなど顔を合わせる機会を増やしていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6	・特になし	・今まで行っていなかったため、保護者交流等の機会を考えてみたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	3	・ブログを行っている。	・更新頻度が少ないため、今後は職員でローテーションし、増やしていきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	・特になし	・現状のご利用児の特性上、デイ外での交流は難しい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	・マニュアルは完備し、年に2回の訓練も実施している。	・今後はより現実的な訓練を行い、保護者への報告も併せて行っていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	3	・BCPは策定している。	・不慣れなスタッフも多いため、決まった機関だけでなく定期的に訓練を取り入れていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	・常に安全を確認しながら支援を行っている。	・職員の危機管理能力にバラつきが見られるため、統一して安全管理に努めたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0			

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメイト茨木郡		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援スペースが広く、運動や自由活動の幅を広げやすい。	整理整頓や断捨離に努め、より安全な環境づくりに努めている。	必要物品をそろえ、現在のご利用児に合わせたスペースづくりを心掛ける。
2	保護者との情報共有が盛んであり、意見や希望を受け入れている。	モニタリング時だけでなく、送迎時や連絡メモ等ツールを用いて、情報の共有や特性理解を深めている。	より保護者との関係性を深められるよう、可能な範囲での保護者参加型プログラムについて考えてみる。
3	グループ活動の充実さ	季節行事だけでなく、個々の運動能力を活かしたり、若い職員のアイディアを積極的に取り入れたりと、日々活動内容の幅を広げている。	デイ以外にも目を向け、新しい物事も積極的に取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置が不安定であり、経験の浅さが目立ってしまっている。	ご利用児の特性や業務内容への理解が低く、対応に困ってしまい、職員が離れていくケースが多い。	定期的な研修開催や日々のミーティング等を通じて、理解を深める機会を意識的に設け、職員間で差が開きすぎない程度にスキルを向上させていきたい。
2	災害時等の訓練が不十分である。	最低限の訓練は行っているが、なかなか現実的には計画できておらず、職員も把握できていない部分があると思われる。	今後の計画は役割や目的を明確にししながら、緻密に立案し、実際に行うことで改善や課題を見出ししていく。
3	就学前や卒業後に関する情報共有が狭い	常に受け手の姿勢であり、積極的に連絡を取ることが今まで少なかったため。	ご利用児の過ごしやすさを第一に考え、積極的な情報収集に努め利用前から対応について考える。また、卒業後の進路先にも必要事項やこれまで取り組んできた物事の情報共有を図り、活かしてもらえるよう働きかけていく。

事業所名

リールスメイト茨木郡

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。							
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。							
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	13 (11)	時 0 分から	19 (17)	時 0 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 ご利用児童の特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。							
	運動・感覚	ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移手段の確保を図る。							
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分が受ける情報を適切に処理できるよう支援。 折り紙や紙コップなど身近にあるものを利用した創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・仕上がっていく過程を体感し、認知機能の発達を促進。 課外活動やイベントの提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照らしつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。							
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通し、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定をとりながら相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。							
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性、集団性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみを感じながら、ルール、待つ、手順などを徐々に理解できるよう支援。							
家族支援		ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。				移行支援		学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。	
地域支援・地域連携		ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。	
主な行事等		新入生歓迎会（4）、夏祭り・水遊び（8月）、クリスマス会（12月）、お別れ会（3月）、鯉のぼり、豆まき、七夕、その他、外出活動（毎月）							

事業所名

リールスメイト茨木郡

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。											
支援方針		成長著しい乳幼児期のお子様ひとりひとりの発達の充実が図られるよう、保護者や地域の支援機関との連携を重視しながら、個々のニーズに合わせ工夫を凝らした多様な活動・体験機会を提供することを通じ、就学に備えられるよう支援する。											
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	13 (11)	時	0	分から	19 (17)	時	0	分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 お子様ひとりひとりの特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、お子様本人の生活リズムの形成・安定を図る。											
	運動・感覚	ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、お子様が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (お子様ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。											
	認知・行動	支援スタッフがお子様ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえてお子様が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、お子様が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、お子様が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、環境の状況や変化を徐々に把握・理解できるよう支援。											
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定をとりながら相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。											
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性、集団性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみを感じながら、ルール、待つ、などを徐々に理解できるよう支援。											
家族支援		お子様の発達状況を相互に理解し合えるよう、こまめな気づきの共有と情報交換を実施。お子様を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。						移行支援		保育所等併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路(就学)先を見据えた保護者等との相談援助を実施。			
地域支援・地域連携		お子様がスムーズな生活を送れるよう、保育所・幼稚園等の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。						職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。			
主な行事等		新入生歓迎会（4）、夏祭り・水遊び（8月）、クリスマス会（12月）、お別れ会（3月）、鯉のぼり、豆まき、七夕、その他、外出活動（毎月）											